

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
大宮国際動物専門学校		平成14年3月29日		下 菌 僚 章		〒 330-0854 (住所) 埼玉県 さいたま市大宮区 桜木町 2-289-2 (電話) 048 - 648 - 8400																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人シモゾノ学園		平成9年1月27日		下 菌 恵 子		〒 154-0011 (住所) 東京都 世田谷区 上馬 4-3-2 (電話) 03 - 5430 - 4400																														
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
文化・教養	動物管理専門課程		愛玩動物看護学科		平成25年1月29日 文部科学省告示 第2号		平成27年2月17日 文部科学省告示 第23号																													
学科の目的	■ 社会や動物関連業界等(特に動物医療分野)から高い評価が得られる職業社会人として必要とする知識・技術・その他の多様な能力が身に付けられる教育を行う。 ■ 動物の健やかな生活支援及び動物医療において動物看護の知識と技能を持ち、動物と飼い主に寄り添うことができる愛玩動物看護師の育成を行う。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	■ 愛玩動物看護師 国家試験(受験者:42名 合格者:41名) ■ 2024年度 中途退学者 1名 : 中退率 0.8% 2024年4月1日において、在学者131名(2024年4月1日入学者を含む)。2025年3月31日において、在学者130名(2025年3月31日卒業者を含む)																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
3 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,820 単位時間 単位	1,530 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,290 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
120 人	132 人		0 人	0 %	0.8 %																															
就職等の状況	■ 卒業者数 (C) : 42 人 ■ 就職希望者数 (D) : 42 人 ■ 就職者数 (E) : 40 人 ■ 地元就職者数 (F) 31 人 ■ 就職率 (E/D) 95.2 % ■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E) 77.5 % ■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C) 95.2 % ■ 進学者数 0 人 ■ その他  (令和 6 年度卒業者にに関する令和7年5月1日時点の情報) ■ 主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 動物関連企業、動物病院、動物業界																																			
第三者による学校評価	■ 民間の評価機関等から第三者評価:なし ※有の場合、例えば以下について任意記載																																			
当該学科のホームページURL	<a href="https://iac.ac.jp">https://iac.ac.jp</a>																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定) <table><tr><td>総授業時数</td><td>2,820 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>210 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,820 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>210 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>240 単位時間</td></tr></table> (B:単位数による算定) <table><tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr></table>								総授業時数	2,820 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	210 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	2,820 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	210 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	240 単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	2,820 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	210 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																			
うち必修授業時数	2,820 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	210 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	240 単位時間																																			
総単位数	単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																			
うち必修単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																			

教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	6 人
	計	12 人
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	12 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。))における企業等との連携に関する基本方針

■ 社会や動物関連業界等(特に動物医療分野)から高い評価が得られる職業社会人として必要とする知識・技術・その他の多様な能力が身に付けられる教育を行うことを教育目的とし、企業等と関連業界の動向や今後の関連業界を担う人材として必要な知識・技術・その他の多様な能力等について広く情報交換・意見聴取を通して教育目標と教育方法の検証と改善を行い、教育の質の向上を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

■ 本校の教育課程編成に関する規程に基づき、教育課程編成委員会を開催し、企業等が求める育成人財像や必要とする知識・技術・その他の多様な能力等について広く情報交換・意見聴取を通して、校長会議にて教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

2025年(令和7年)4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
山中 利之	やまなか動物病院 院長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
鈴木 零央	所沢アニマルメディカルセンター 動物看護師	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
杉山 菜苗	どうぶつの総合病院 看護部 看護師長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
小暮 麻椰	どうぶつの総合病院 看護部 副看護師長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
鈴木 沙織	株式会社333Dog-Care 代表取締役	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
早川 みのり	フジタ動物病院 DJマー	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
成田 司	一般社団法人 日本ペットサロン協会 事務局長 株式会社ジーパウ 代表取締役	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
工藤 裕紀	東京ペット貿易株式会社 マナウス 埼玉大井店 店長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
石橋 仁	株式会社 東葛ペット 小売部マネージャー	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
小林 翼	有限会社 小林農産 取締役	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
坂本 和弘	ハンズ・オン プランニング 自然科学担当	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
深井 鈴	株式会社HARRY 横浜中華街店 店長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
坂口 豪	株式会社ベッツリンク 繁殖事業部 ペットショップ事業部 部長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
長島 有伽	合同会社Ola family 代表社員	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
山岡 慎	犬のしつけONECL	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和8年)3月31日	③
下 蘭 恵子	国際動物専門学校 校長	同上	—
下 蘭 僚章	学園本部 本部長	同上	—
吉川 鉄平	教務部 部長	同上	—
中村 健人	教務課 課長	同上	—
大木 隆昌	教務課 主任獣医師	同上	—
佐藤 絵里砂	教務課 主任教員	同上	—
関根 和子	教務課 主任教員	同上	—
鈴木 久崇	教務課 主任教員	同上	—
下地 美紀	教務課 教員	同上	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) ■ 教育課程編成委員会を年2回以上（8月頃、10月頃）開催する。 (開催日時(実績)) 第1回 2024年(令和6年) 8月30日 13:00 ～ 15:00 第2回 2024年(令和6年) 10月30日 13:00 ～ 15:00			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。 ■ 教育課程編成委員会を通じ、新たな教育目標の設定や企業等との連携による学内外の研修・実習等を教育課程に編成した。			
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 ■ 学内の授業・実習等で修得した知識や技術等を企業等の各施設や現場で活用して実践力を養成しつつ、高い評価が得られる職業社会人として必要な知識や技術・その他の多様な能力の実情を学生本人が把握し、求められる能力・資質等を見極め、自身の力の醸造と今後の学習においての自己課題を設定する機会とする。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 ■ 企業連携実習において、職業社会人としての業務を直接体験・見学することによって、学生が自己に求められる人財像を正しく認識し、仕事に取り組む姿勢・態度等を磨く。また、企業等の施設において企業の実習担当者の指導の下、企業等の施設・現場だからこそ学び得られる知識・技術等を身に付けられる実習を行う。実習終了後には、企業の実習担当者による学習評価も踏まえ、学内教育担当者が成績評価を行う。			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
動物内科看護学 実習Ⅰ	企業内における実習	動物病院の施設・運営や愛玩動物看護師の職務を見学学習し、動物病院の実際の状況や愛玩動物看護師の役割・職務についての教育を行う。	志村坂下動物総合医療センター
動物外科看護学 実習Ⅰ	企業内における実習	動物に対する手術現場に立会い、見学学習を通して、愛玩動物看護師の手術時における役割や行動の仕方を教育する。	夜間救急病院 さいたま大宮
動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	学内における実習	愛玩動物看護師に求められる 動物愛護・適正飼養に関わる知識 等についての教育する。	ペット防災せたがやネットワーク

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 ■教育の質を高めるにあたり、教員に対する研修は本校の規程に基づき、教育担当者として求められる専攻分野における知識・技術・その他の多様な能力の向上に関する研修等と授業方法や学生指導等の教員としての資質の向上に関する研修等を行うとともに、本校がその時節において必要と考える資質・能力を身に付け高める研修等を業務経験や能力、担当する授業科目や職務に応じて必要な研修等を各教職員に実施する。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	動物病院研修	連携企業等：株式会社 SONAC
期間：	2024年(令和6年) 6月5日	対象：教職員
内容	動物医療の臨床現場において使用される 内視鏡 及び 血液生化学検査機 等に関する知識・技術 等を向上させ、学生指導に活かす。	
研修名：	動物病理検査施設研修	連携企業等：難波動物病理検査ラボ
期間：	2025年(令和7年) 3月27日	対象：教職員
内容	動物病理検査施設において、動物医療の病理検査における 検査用標本の作成 及び 診断 等に関する知識・技術 等を向上させ、学生指導に活かす。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	アプリを用いたパワーポイント作成研修	連携企業等：株式会社 SCI
期間：	2024年(令和6年) 8月21日	対象：教職員
内容	デジタル技術を用いた資料作成方法や手段を学ぶことで、学生理解力や伝達力についての知識・技術を高め、適切な学生指導が行えるように研修を行う。	
研修名：	キャリアテクニカル教育研修	連携企業等：ミレニア・エデュケーション
期間：	2024年(令和6年) 9月8日	対象：教職員
内容	学生が主体的に自立し且つキャリアゴールの設定とそれを達成するために必要な知識や資質等を修得させ、社会等に貢献する意識を高める学生指導が行えるように研修を行う。	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名：	動物病院研修	連携企業等：株式会社 SONAC
期間：	2026年(令和8年) 2月22日	対象：教職員
内容	動物医療の臨床現場において使用される 内視鏡 及び 血液生化学検査機 等に関する知識・技術 等を向上させ、学生指導に活かす。	
研修名：	動物病理検査施設研修	連携企業等：難波動物病理検査ラボ
期間：	2026年(令和8年) 3月11日	対象：教職員
内容	動物病理検査施設において、動物医療の病理検査における 検査用標本の作成 及び 診断 等に関する知識・技術 等を向上させ、学生指導に活かす。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名：	生成AI活用研修	連携企業等：合同会社ブンシン
期間：	2025年(令和7年) 8月25日	対象：教職員
内容	生成AIの種類や使用方法に関する知識の習得 及び 専門学校での活用事例 を学び、現在の業務に活かす。	
研修名：	インストラクショナルデザイン研修	連携企業等：一般社団法人 全国専門学校教育研究会
期間：	2025年(令和7年) 11月26日	対象：教職員
内容	インストラクショナルデザインに関する基本的な知識 及び 基本的な考え方を学び、教育の質を向上させる。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

■ 本校で実施した自己点検・評価を基に、企業等評価委員・卒業生等評価委員・保護者地域住民等評価委員・高校等評価委員・専門家等評価委員等で構成する学校関係者評価委員会にて評価・改善等について協議を行い、前向きな姿勢のもと、本校の学校運営と教育の質の向上を行うことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人財像等
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、意思決定システム等
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価等
(5)学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、保護者との連携等
(6)教育環境	施設・設備等、防災・安全管理等
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金等
(8)財務	財務基盤、監査、財務情報の公開等
(9)法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開等
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

■ 様々な立場の学校関係者から頂戴したご意見等を学校運営や教育の質の向上についての取り組み案に活用した。特に、愛玩動物看護師法・動愛法の改正に伴う教育活動への取り組みへの対応、卒業率向上への取り組みの考え方について、学生のモチベーションを高める取り組みを行うこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
宗像 俊太郎	公益社団法人 日本動物病院協会 会長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和7年)3月31日	企業等 評価委員
太田 宗雪	株式会社 EDUWARD Press 代表取締役社長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和7年)3月31日	企業等 評価委員
國分 達夫	東京都立 晴海総合高等学校 元校長	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和7年)3月31日	高校等 評価委員
齊藤 勉	東京都 多摩地区 高等学校 進路指導協議会 顧問	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和7年)3月31日	高校等 評価委員
伊野 聖一	卒業生	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和7年)3月31日	卒業生等 評価委員
廣井 愛	卒業生	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和7年)3月31日	卒業生等 評価委員
高橋 麻理子	在校生保護者	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和7年)3月31日	保護者等 評価委員
大平 久美子	在校生保護者	2025年(令和7年)4月1日 ～ 2026年(令和7年)3月31日	保護者等 評価委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.iac.ac.jp/school-report.html#tokyo>

公表時期: 2025年(令和7年)8月6日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

■ 高等教育機関としての社会的役割を担うべく、公正な運営を実現できるよう、企業等関係者に本校の運営内容を認知していただく事で更なる対話が促され、着実に学校運営と教育の質を向上し続けられるように取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校基本情報、学校沿革、目標及び計画(教育理念・教育方針)等
(2)各学科等の教育	各コースの定員及び修業年数、学習指導方針、授業時間等
(3)教職員	教職員数・組織体制、教職員研修の基本方針、教職員研修の実績等
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況、企業等と連携した実習・演習の実施実績等
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況等
(6)学生の生活支援	学生支援への取り組み状況等
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	収支計算書、貸借対照表等
(9)学校評価	自己点検・評価の結果、学校関係者評価の結果等
(10)国際連携の状況	
(11)その他	学校運営に関するその他の情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.iac.ac.jp/school-report.html#tokyo>

公表時期: 2025年(令和7年)6月4日

# 授業科目等の概要

動物管理専門課程 愛玩動物看護学科 2025年度(令和7年度)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			人間力養成講座Ⅰ	人としての人間力を高めるとともに、社会人として信頼される考え方・行動習慣を習得する。	1通	30	1	○			○		○		
2	○			社会人力養成講座Ⅰ	企業や他者の立場に立った考え方・行動の仕方を学ぶとともに、学生が個人の希望と適性に合った企業等に就職できるように必要な知識・技術・マナーなどを習得する。	1通	30	1	○			○		○		
3	○			生命倫理・動物福祉Ⅰ	生命倫理の考え方 及び 動物愛護・動物福祉について学ぶ。	1通	30	1	○			○			○	
4	○			動物形態機能学Ⅰ	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞・組織・臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1通	60	2	○			○			○	
5	○			動物形態機能学Ⅱ	動物の生命維持の仕組みを形態学・機能学・生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞・組織・臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	2通	60	2	○			○			○	
6	○			動物繁殖学Ⅰ	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠と分娩・新生子管理・遺伝学の基礎知識を修得する。	1通	30	1	○			○			○	
7	○			動物行動学Ⅰ	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因・対処・予防法を理解する。	1通	30	1	○			○			○	
8	○			動物栄養学Ⅰ	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法を修得する。	1通	30	1	○			○		○		
9	○			動物栄養学Ⅱ	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法を修得する。	2通	30	1	○			○		○		
10	○			比較動物学Ⅰ	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史・品種・飼養管理法、実験動物の品種・飼養管理法・動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。	3通	60	2	○			○			○	
11	○			動物看護関連法規Ⅰ	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。	1前	15	0.5	○			○		○		
12	○			動物愛護・適正飼養関連法規Ⅰ	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	1後	15	0.5	○			○		○		
13	○			動物看護学 概論Ⅰ	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し、職業意識を形成する。	1前	30	1	○			○			○	



14	○			動物病理学Ⅰ	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	1通	30	1	○				○			○	
15	○			動物薬理学Ⅰ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	1通	30	1	○				○			○	
16	○			動物薬理学Ⅱ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	2通	30	1	○				○			○	
17	○			動物感染症学Ⅰ	微生物や寄生虫の分類・生物学的特性・伝播様式・発病のメカニズムについて学び、検査・診断・衛生管理・予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。また、感染防御に関わる免疫学の基礎についても理解する。	1通	30	1	○				○			○	
18	○			動物感染症学Ⅱ	微生物や寄生虫の分類・生物学的特性・伝播様式・発病のメカニズムについて学び、検査・診断・衛生管理・予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。また、感染防御に関わる免疫学の基礎についても理解する。	2通	60	2	○				○			○	
19	○			公衆衛生学Ⅰ	環境及び食品衛生・疫学・人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	2通	60	2	○				○			○	
20	○			動物内科看護学Ⅰ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査・採血・投薬・輸液・輸血・画像診断に必要な検査・所見の記録などについて理解する。	1通	30	1	○				○			○	
21	○			動物内科看護学Ⅱ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査・採血・投薬・輸液・輸血・画像診断に必要な検査・所見の記録などについて理解する。	2通	30	1	○				○			○	
22	○			動物内科看護学Ⅲ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査・採血・投薬・輸液・輸血・画像診断に必要な検査・所見の記録などについて理解する。	3通	30	1	○				○			○	
23	○			動物外科看護学Ⅰ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備・術中補助・術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	1通	30	1	○				○			○	
24	○			動物外科看護学Ⅱ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備・術中補助・術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2通	30	1	○				○			○	
25	○			動物臨床看護学 総論Ⅰ	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	1後	30	1	○				○			○	
26	○			動物臨床看護学 各論Ⅰ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置・治療に関する基本的な知識を学ぶ。また、各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	2通	30	1	○				○			○	
27	○			動物臨床看護学 各論Ⅱ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置・治療に関する基本的な知識を学ぶ。また、各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	3通	90	3	○				○			○	
28	○			動物臨床検査学Ⅰ	様々な臨床検査の原理・方法・意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	2通	30	1	○				○			○	
29	○			動物臨床検査学Ⅱ	様々な臨床検査の原理・方法・意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	3通	30	1	○				○			○	

30	○		動物医療コミュニケーションⅠ	事前問診・入院動物の容態説明・院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	1通	30	1	○			○		○		
31	○		動物医療コミュニケーションⅡ	事前問診・入院動物の容態説明・院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	2通	30	1	○			○		○		
32	○		動物医療コミュニケーションⅢ	事前問診・入院動物の容態説明・院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	3通	30	1	○			○		○		
33	○		愛玩動物学Ⅰ	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	1通	60	2	○			○			○	
34	○		人と動物の関係学Ⅰ	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態・課題などを含めて理解する。	1通	30	1	○			○			○	
35	○		適正飼養指導論Ⅰ	愛玩動物の効用や飼養目的などを理解した上で、適正飼養の推進活動・災害時の危機管理の在り方・動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3通	60	2	○			○		○		
36	○		動物生活環境学Ⅰ	動物の行動様式を理解した上で、家庭などにおける飼養環境の整備、ペット共生住宅等の整備・管理の方法、ペットの事故やケガなどのリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境の在り方を理解する。	2通	30	1	○			○			○	
37	○		ペット関連産業概論Ⅰ	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	3通	30	1	○			○		○		
38	○		動物形態機能学実習Ⅰ	動物の身体の形態と機能を骨格標本・臓器模型・主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1通	30	1				○	○			○
39	○		動物内科看護学実習Ⅰ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	1通	90	3				○	○		○	
40	○		動物内科看護学実習Ⅱ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2通	90	3				○	○		○	
41	○		動物内科看護学実習Ⅲ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	3通	60	2				○	○		○	
42	○		動物外科看護学実習Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2通	60	2				○	○			○
43	○		動物外科看護学実習Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3通	90	3				○	○			○
44	○		動物臨床看護学実習Ⅰ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	2通	30	1				○	○			○
45	○		動物臨床看護学実習Ⅱ	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	3通	30	1				○	○			○

46	○			動物臨床検査学 実習Ⅰ	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。	1通	60	2			○	○			○	
47	○			動物臨床検査学 実習Ⅱ	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。	2通	30	1			○	○			○	
48	○			動物臨床検査学 実習Ⅲ	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。	3通	30	1			○	○			○	
49	○			動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	動物の飼養管理に関する基本的な取り扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	3通	60	2			○	○			○	
50	○			基礎学Ⅰ	主に動物病院において評価の高い愛玩動物看護師となるべく、動物看護に関する知識・技術を統合学習するとともに、飼い主と動物に寄り添うことができるように必要な知識・技術・資質を身に付け、向上させる。	1通	60	2	○			○			○	
51	○			基礎学Ⅱ	主に動物病院において評価の高い愛玩動物看護師となるべく、動物看護に関する知識・技術を統合学習するとともに、飼い主と動物に寄り添うことができるように必要な知識・技術・資質を身に付け、向上させる。	2通	45	1.5	○			○			○	
52	○			基礎学Ⅲ	主に動物病院において評価の高い愛玩動物看護師となるべく、動物看護に関する知識・技術を統合学習するとともに、飼い主と動物に寄り添うことができるように必要な知識・技術・資質を身に付け、向上させる。	3通	60	2	○			○			○	
53	○			動物栄養学 実習Ⅰ	動物の飼養管理に関する基本的な栄養や飼い主とのコミュニケーションなど、動物栄養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	3通	30	1			○	○			○	
54	○			動物看護美容基礎学Ⅰ	動物の衛生管理に関する動物の負担を考慮した飼い主や動物に喜んでもらえる基本的なグルーミング・トリミングなど、動物内科看護学 及び 動物内科看護学 実習 に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	2前	15	0.5	○			○			○	
55	○			動物看護美容実習Ⅰ	動物の衛生管理に関する動物の負担を考慮した飼い主や動物に喜んでもらえる基本的なグルーミング・トリミングなど、動物内科看護学 及び 動物内科看護学 実習 に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	2通	180	6			○	○			○	
56	○			動物看護美容実習Ⅱ	動物の衛生管理に関する動物の負担を考慮した飼い主や動物に喜んでもらえる基本的なグルーミング・トリミングなど、動物内科看護学 及び 動物内科看護学 実習 に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	3通	180	6			○	○			○	
57	○			動物看護総合実習Ⅰ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。また、診療施設の概要・機能・獣医師との連携・飼い主とのコミュニケーション・愛玩動物看護師としての役割や責任についてを理解し、実務能力を修得する。	1通	90	3			○				○	○
58	○			動物看護総合実習Ⅱ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。また、診療施設の概要・機能・獣医師との連携・飼い主とのコミュニケーション・愛玩動物看護師としての役割や責任についてを理解し、実務能力を修得する。	2通	90	3			○				○	○
59	○			動物看護総合実習Ⅲ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。また、診療施設の概要・機能・獣医師との連携・飼い主とのコミュニケーション・愛玩動物看護師としての役割や責任についてを理解し、実務能力を修得する。	3通	60	3			○				○	○
合計						59	科目	2820 単位(単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：修了すべき授業科目について試験等を行い、試験等の成績に基づき校長会議の議を経て、これを認定する。		1学年の学期区分	2期
履修方法：必修		1学期の授業期間	31週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。